

氏 名：笹山 桐子
学位の種類：博士（看護学）
学位記番号：甲第 211 号
学位授与年月日：2022 年 3 月 10 日
学位授与の要件：学位規則第 4 条第 1 項該当
論文審査委員：主査 長松 康子（聖路加国際大学准教授）
副査 大田 えりか（聖路加国際大学教授）
副査 奥 裕美（聖路加国際大学教授）
副査 桃井 保子（鶴見大学名誉教授）

論文題目： Development and Feasibility of an Oral Health E- Learning
Program for Long-Term Japanese Overseas Workers: A Pilot
Randomized Controlled Trial

博士論文審査結果

海外に長期滞在する邦人向けセルフケアのための口腔衛生 e ラーニング教材を開発し、その効果を測るランダム化比較試験のパイロットテストを実施した。

海外で長期滞在経験のある邦人に対する予備研究によって、渡航中に最も多かった健康問題が、う蝕を中心とする口腔疾患に関する問題であったことから、本研究の着想に至った。海外渡航中の高濃度フッ素配合歯磨き剤を用いたブラッシングの実践を教育ゴールとし、Fisher らによる IMB（情報・動機・行動スキル）モデルを用いて、最新のエビデンスに基づき、漫画、動画及びクイズを取り入れた e ラーニング教材（約 40 分）を開発した。海外渡航予定の邦人 71 名を、介入群（e ラーニングとリーフレット）と比較群（リーフレットのみ）の 2 群に配し、プレテストとフォローアップテスト（3 か月後）の 2 時点における口腔関連の知識、動機、行動スキル、フッ素使用行動、口腔関連 QOL を比較した。その結果、介入群は比較群に比べてフォローアップテストにおける知識の優位な上昇がみられた。高濃度フッ素配合歯磨き剤選択と歯磨き後 2 時間の禁食は、介入群でフォローアップの実施度が有意に上昇したが、有意な交互作用は見られなかった。

審査での主な指摘は 5 点である。

第 1 点は、電子教材を選んだ理由に関する説明不足である。

第 2 点は、比較群が学習したリーフレットについての説明不足である。

第 3 点は、歯科衛生に関する WHO の最新の知見に関する記述不足である。

第4点は、介入群においてプログラム学習後にリスク認知得点が低下したことについての考察不足である。

第5点は、結論における、海外で就労する邦人の歯科衛生向上における本教材の効果とパイロットスタディとしての結果に関する記述不足である。

これらの指摘事項に対し、加筆修正を認めた。

わが国の重要な政策である国際協力事業においては、気候、食事、衛生環境、文化の異なる地域で活動に従事する邦人の安全と健康が重要な課題である。本学生は、自身も海外医療協力活動に従事後、在外邦人の健康管理を務めた経験があり、一貫して国際協力事業に従事する邦人の健康促進に貢献してきた。

以上により、本論文は、本学学位規程第5条に定める博士（看護学）の学位を授与することに値するものであり、申請者は看護学における研究活動を自立して行うことに必要な高度な研究能力と豊かな学識を有すると認め、論文審査ならびに最終試験に合格と判定する。